Anchor's PERSON

株式会社 HY テック
代表取締役社長

小田 良之

「当社の存続だけでなく、業界全体の将来を考えると、人材の確保と育成が大きな課題」――。
小田社長の口から出たその言葉には、責任感が滲み出ていた。
電動機やポンプを修理や維持・管理で健全に保つことは、ライフラインに関わるからだ。
業界全体で人材不足に喘ぐ今、ベテランの技術を若手に継承し、
次世代へとバトンを託すことを、自身の使命と課す。
その高い志は同業界を照らし、ひいては社会を支えていくはずだ。

「自社の存続と業界の将来を見据え、経営者としての役割を果たしたい」

© 2024 HOUDOU-TSUSHINSHA Co.,Ltd.

株式会社 HYテック

青森県八戸市大字十日市字姥岩 14
URL：https://www.kk-hytekku.com

電動機整備
様々な電動機及びポンプ・ブロワ等の整備を行っています。軸受の交換、摩耗部の加工からコイルの巻替まで一括で修理に対応。電動機修理は耐電圧試験を用いて目には見えないコイルの状態を診断・確認しています。

ブロワ整備
各メーカーの様々なブロワの整備に対応します。アンレット、鶴見製作所、大見機械工業、昭和電機など

各種コイル巻替
電動機のコイルから様々なコイルの巻替に対応します。整備についても、様々な用途に使用されている小型から大型の電動機やポンプ等の回転機器の交換・設置作業を行っています。機器の交換・設置ではＶベルトの調整やカップリングの調整を行い、機器が正常に動作するよう確実に調整します。

減速機整備
各メーカーの減速機整備に対応します。住友重機械工業、三菱、日立、SEW など

電動機修理に付随する業務を専門に

電動機の修理や各種コイル巻替などに特化し、高い技術力による確かな仕事が信頼を得ている『HYテック』。ライフラインを守る黒子的な役割を担い、各メーカーから依頼を受けている。本日は、タレントの市井紗耶香さんが同社を訪問し、小田社長とご子息である小田取締役にお話を伺った。

guest interviewer

「現在 35 歳という小田取締役。家業に入って改めて父親である小田社長の努力や偉大さに気づかれたそうで、自社事業の重要性も理解し、会社を守っていきたいとお気持ちを新たにされました。社長にとってはこれ以上ない喜びですよね。『HY テック』さんのこれからを応援しています」　市井 紗耶香・談

――早速ですが、小田社長の歩みから。

（社）　社会に出て最初に就いた仕事は、重機を中心に建設機械を扱う会社の営業職でした。社会人としての一般常識にはじまり、ビジネスパーソンに求められるスキルを叩き込まれたことは、貴重な経験となりました。ただ、そちらに 7 年ほど勤務したころに会社が倒産の憂き目に遭ったんです。所長だった方が営業所を買い取ってお客様も引き継がれることになり、私はそちらでさらに働いたので計 15 年ほど経験を蓄積しました。そして、さらに別の業種でも経験を積めないかと考えていたところに、人材を求めている業界があると誘われて入ったのが現在の業界です。そして、3 人で個人事業をスタートさせたのが 10 年前。7 年前に法人化を進げると同時に私が現職に就任しました。工場が空いていると聞いて 4 年前にこの場所に移転してきました。

――では、『HY テック』さんの事業内容について教えてください。

（社）工場用の大型ファンをはじめ様々な用途で使用されている電動機の修理において、軸受の交換からコイルの巻替まで対応しています。電動機と聞いて、一般の方々はあまりピンとこないかもしれませんが、例えば上水を河川から汲み上げて各家庭の蛇口まで送水するためにポンプを使用していて、それを動かすのが電動機です。つまり、電動機の故障は日々の生活にも支障を及ぼすんです。もっと身近なものですと、家庭用の扇風機にも使われています。軸受の交換に伴う消耗部品の交換も手掛けていますし、動作しなくなった機器や運転能力が低下した機器、異音を放つ機器を点検し、修理によって維持・管理をサポートしているんです。電動機に準ずるポンプ・ブロワなどの修理もお任せいただけますよ。

――ライフラインを支える黒子的なお仕事と言えますね。

（社）おっしゃる通りです。サービスステーションとして指定を受けて、様々なメーカーや機種の整備、点検・調査、機器の設置などを担っています。こちらに移転したことで工場の環境も整い、生産性も上がって、さらに信頼とご期待に応えていきたいと意気込んでおります。

――それにしても、専門性が高くて技術がものを言う業界ですね。

（社）　はい。それも、電動機やポンプといった重要な部分を扱っているので、当社を含めてこの業種の存在意義はとても高いと思います。一方で、人材は減少傾向にあり、次世代へと引き継ぐことの重要性を感じていますね。次期後継者は、現在、代表取締役専務を務める八木橋真で、八木橋の後を息子が継ぐ予定です。

――御社には、社長の後を継ぐ専務、さらに取締役を務めるご子息が控えていて、安泰ですね。

（取）　私が小さいころから、父は何かあれば駆けつけるため、寝る時にはいたはずなのに朝に起きたら姿がないということがよくありました。そんな父を見て育ったものの、社会の第一歩は地元の企業に就職し、現場修業からはじめてクレーンの管理を任されるまでになっていたんです。でも、3 年ほど父から説得されたと言いますか、半ば強制的に当社に入ることとなりました。それが今年 4 月のことです。

取締役　小田 良紀

代表取締役社長　小田 良之

技術で信頼に応えて業界を支えたい

（社）　当社の後継や業界の将来を考えると、若い人材は喉から手が出るぐらい欲しいですからね（苦笑）。これからのことを考えると心が安まらない日もありましたが、息子に加えて若い人材が 2 人入ってくれたお陰で、肩の荷が少し下りたように感じます。現在は、工場での修理よりも現場に赴いての修理が増えているので、尚のこと人材が必要なんです。修理などのご依頼は次々に舞い込み、人手が足りないがためにお断りするしかない場合もあり、お役に立てないのが本当に心苦しいんですね。当社は特に、官庁関係の仕事も受けているのが強みなので、依頼に応えられる体制の強化は急務であり、目下の課題です。

――それは、人材の育成や層を厚くする必要がありますね。

（社）　はい。若い人材を確保するために、地元の高校を回って進路指導の先生方とお話しさせていただきましたが、地元を離れて都会へと出て行く子が多い上に、地元に残った若手は大手企業を希望します。当社のような中小企業は人材を確保するのも一苦労という状況なんです。

――しかし、ライフラインを支える重要な仕事であり、社会貢献度はとても高い。やり甲斐のある仕事だと、若い方々にもっと知っていただきたいですね。

（社）　そうですね。ミリ単位の精緻な仕事が求められる専門性の高い業種ですが、当社にはずっと私について来てくれている 70 代のベテランもいますし、ベテランから若手へと技術を継承できる環境があります。生涯雇用なので安心して働いてもらえますし、目をかけてしっかり技術を伝えるので、興味があればぜひ飛び込んで来てもらいたいです。

――ベテランから教われるというのは大きいですね！　今後、取締役をはじめ若い世代が支えていかれる時代が来るわけですが、楽しみでもあるでしょう。

（社）　指導を兼ねていろんな場所へ連れて歩いていますし、現場でも経験を蓄積しようと奮起してくれていて、頼もしくあります。

（取）　実際に当社で働いてみて、この仕事の存在意義を実感しています。当社、そして業界を支えていけるよう勉強と経験を蓄積する――それに尽きます。

（2024 年 4 月取材）

<<< 受け継がれたバトン

▼専門性が高く、技術力が求められる業界ほど、若い担い手不足に悩む現代。しかし、次世代へ継承されなければ、その技術はやがて絶え、結果的に社会の機能性や我々の暮らしも脅かされることとなる。『HY テック』も同様の課題に直面しており、小田社長は人材の確保と育成に意欲を見せる。後継者に恵まれず、廃業せざるを得ないケースも多い中、次期後継者である代表取締役専務の八木橋真氏、さらに社長のご子息である取締役の存在は、同社を頼る取引先にとって将来への不安を払拭する明るいニュースだ。若手も 2 名加わり、末永く事業を続け、電動機やポンプの維持・管理を通してライフラインを支えていく。社長から次世代へ、そしてその先へ――バトンが受け継がれていくことを願う。

© 2024 HOUDOU-TSUSHINSHA Co.,Ltd.